

---

# クイズマジックアカデミー コウキの学園生活！

KOKI

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

クイズマジックアカデミー コウキの学園生活！

### 【Nコード】

N0887X

### 【作者名】

KOKKI

### 【あらすじ】

この小説はクイズマジックアカデミーを題材にしたオリジナル小説です。

主人公は私の考えたオリジナルキャラクターです！！

ちなみに、この小説に出てくるキャラクターは、すべて私の考えた性格にしておりますので、そこはご了承下さい。

主人公：コウキ

年齢：15歳

身長：180cm

髪型：銀色のウルフヘア

私の考えたキャラクターのプロフィールは物語が進む毎に更新いたします。

では、奇想天外の学園生活、是非お楽しみください！！

## 主人公紹介（前書き）

これは人物紹介です。

本編ではありませんのでご了承ください。

## 主人公紹介

この小説はクイズマジックアカデミーを題材にしたオリジナル小説です。

主人公は私の考えたオリジナルキャラクターです!!

ちなみに、この小説に出てくるキャラクターは、すべて私の考えた性格にしておりますので、そこはご了承下さい。

主人公：コウキ

年齢：15歳

身長：180cm

髪型：銀色のウルフヘア

私の考えたキャラクターのプロフィールは物語が進む毎に更新いたします。

では、奇想天外の学園生活、是非お楽しみください!!

**第1回テスト 変わった転入生？（前書き）**

ここから本編です。

では、お楽しみください

## 第1回テスト 変わった転入生？

「早朝 校長室」

ヴァルアドス校長「ウィーズ、こんな時間に何の用だ？」

ウィーズ「朝早くに申し訳ありません。突然の話なのですが、この学園にもう1人生徒を入りたいのです。」

ヴァルアドス校長「なるほど。で、その生徒はかなりの実力者なのか？」

ウィーズ「私が保証します。」

ヴァルアドス校長「そうか、では、転入手続きを済ませよう。で、その生徒の名は？」

ウィーズ「コウキと申します・・・」

「学校 廊下」

ルキア「ううううあああ！！ちこくしちやうううー！！！！」

1人の女子が全力で廊下を走っていた・・・。

ガラッ！

ルキア「セーフー!!」

アメリア「アウトよ!!」

バリバリ!! (雷が落ちる音)

ルキア「きゃあああ!!」

アメリア「もう、毎日毎日よく遅刻して、反省しなさい!!」

ルキア「す、すいませ〜ん(泣)」

アメリア「もう、ほら早く席付いて!」

ルキア「は〜い……」

シャロン「全く、あなたは何で遅刻ばかりするの?」

ルキア「いやあ、ついつい夜更かししちゃって(汗)」

シャロン「はあ、言葉も出ませんわ。」

サツキ「は〜い、みんな聞いて。」

シャロン「ほら、始まるわよ。」

ルキア「おお、そうだね(焦)」



サツキ「今日は突然ですが、転入生を紹介します！」

みんな「え〜〜〜!!」

レオン「マジかよ!!」

ユウ「楽しみだな」

タイガ「おもしろい奴やつたら、一発ぶちかましたるかな！」

セリオス「殴ったらダメだろ。」

サツキ「さあ、入ってきて。」

ガラガラ・・・

教室に入ってきたのは、身長が180cm位で銀色の髪の毛のウルフヘア、紫色のコートを着た錬金術師の服装をした少年が入ってきた。

サツキ「それでは、自己紹介を。」

コウキ「はい！コウキと言います。年は15です。よろしくお願ひします！」

アロエ「うわあ、おっきいね〜〜!!」

サンダース「うむ、是非軍隊で鍛えさせたいな。」

サツキ「はい。ではコウキ君の席はレオン君の隣の席が空いてるか

ら、そこに座って。」

コウキ「は、はい。わかりました……。」

コウキは、言われた通りレオンの隣に座った。

レオン「コウキだっけ？俺はレオンって言うんだ。よろしくな！」

コウキ「お、おう！よろしくな！」

「休み時間」

休み時間になると……

ルキア「ねえねえ！どこの学校から来たの!？」

ユリ「前の学校で何かやっていたんですか!？」

クララ「兄弟とかいるんですか!？」

アロエ「何人家族なの!？」

4人の女子がコウキに話しかけて来た。

コウキ「え……え……!？」

答えずに戸惑うコウキ

コウキ「ちょ、ちょっとトイレ!!!(逃)」

レオン「お、おいコウキ!!」

レオンもコウキを追いかけた。

カイル「ちよつと、2人とも!!」

カイルも追いかける。

ユウ「も、もれる〜!!(焦)」

・・・ユウだけは纯粹だった。

「学園 男性便所」

コウキ「はあ・・・はあ・・・」

レオン「おい、いきなりどうしたんだよ!」

カイル「何かあつたんですか?」

コウキ「い、いや、その・・・」

そこに・・・

セリオス「ん?3人で何やっているんだ?」

セリオスと・・・

ユウ「はあ〜すつきりした〜」 (ほへ〜)

用を足したユウがやって来た。

ユウ「ん？コウキさんどうかしたの？」

コウキ「そ、その・・・」

レオン「実はさ・・・」(ゴニョゴニョ)

セリオス「なに？コウキくんが女子の前から逃げ出した？」

ユウ「何で逃げ出すの？とっても優しいのに。」

コウキ「あ、あのさ・・・一つ質問していいかな？」

レオン「ん？ああ、いいけど。」

カイル「どこか疑問になる話してましたっけ？」

セリオス「逆に僕たちが質問してるのに、なぜ彼が質問で返すんだ？」

コウキ「あのさ・・・さっきの人たちなんだけど・・・」

ユウ「ルキアさんとユリさんとクララさんとアロエちゃんのこと？」

コウキ「・・・あれは新種なのか!？」

レオン セリオス カイル ユウ「・・・え？(汗)」「」「」

コウキ「さっきの人たち、男の生まれ変わりなのか！？突然変異で生まれたのか!？」

セリオス「ちょ、ちょっと待ってくれないか？（焦）」

カイル『どういうことでしょうか?』

ユウ『新種って……』

レオン『ちょ、ちょっと俺、確認してもいいか?』

セリオス『ああ、頼む。』

レオン「え〜っと……コウキ。」

コウキ「なんですか?」

レオン「え〜っと……コウキって、女性とか女の子とか知ってるか?」

コウキ「……」

レオン セリオス カイル ユウ「……（汗）」

コウキ「……なにそれ？美味しいのか?」

レオン『こ、これでわかった……』

セリオス カイル ユウ『コウキって』

レオン セリオス カイル ユウ『女性を全く知ってない!!?』

コウキ『・・・?』

第2回テスト：女の人って・・・（前書き）

第1回テストの続きです。

## 第2回テスト：女の人って・・・

「学校 職員室」

ミランダ「サツキ先生。」

サツキ「はい、なんででしょう?」

ミランダ「放課後に転入生の身体測定をしたいんだけど、大丈夫かな?」

サツキ「わかりました。あとで報告しておきます。」

ミランダ「それにしても、聞いたわよ? 転入生があまりクラスに溶け込んでないって。」

サツキ「最初は誰だって溶け込むのに時間はかかりますよ。」

ウィーズ「いや、コウキの場合は凄く長くなるかもしれない。」

そこにウィーズ先生がやって来た。

サツキ「え? ウィーズ先生、どういことですか?」

ウィーズ「実はコウキは15年間、私が育てあげたのさ。」

サツキ ミランダ「ええ!?!」

ミランダ「ということは、隠し子!?!」



ウィーズ「違う！！断じて違う！！彼は遠征でとある村に訪れた時に捨てられていて拾ったのさ。」

ミランダ「なんだ。ちゃんといってよ！」

ウィーズ「早とちりするからですよ（汗）」

サツキ「で、どこが問題なのですか？」

ウィーズ「うむ、コウキは15年間私が育てたって言っただろう。」

サツキ「はい……。」

ミランダ「最初に言ってたわね。」

ウィーズ「簡単に言うと、コウキは15年間俺と一緒に暮らしていたんだ。そのせいで、女性というものを全く知らないのさ。」

サツキ「ミランダ「ええええ!?!」」

AM4:00

「アカデミー内 男子寮」

ガルダ「……んで、ココがお前が今日から寝る部屋だ。4人部屋だから仲良くするように。荷物はそろえてあるから、中身は確認しておけよ。あと夜の間、俺様はあそこの管理室にいるから、何かあったらあそこに来いよ。」

コウキ「ありがとうございます！」

ガルダ「うむ、元気があつてよろしい。お前ら！仲良くするようにな！」

レオン　カイル　セリオス　ユウ「はい。」

ガルダ「カイルとセリオスとユウは、8時になったらちゃんと自分の部屋に戻れよ。」

カイル　セリオス　ユウ「はい。」

ガルダ「よし、じゃあさつさと荷物を整理しとけよ。」

コウキ「わかりました。」

と、ガルダが管理室に戻っていく……。

コウキ「あの鳥も突然変異でああなつたのか！？」

セリオス「ガルダ先生の場合は鳥人だ（汗）」

ユウ「あまり気にしないでね（汗）」

と、荷物をそろえ終えたところで……

レオン「じゃあ、本題と入ろうか。」

カイル　セリオス　ユウ「うん……。」

コウキ「何で黙るんだ？」

セリオス「さつき紙に書いたんだが、この通りでいいんだよね？」

セリオスはコウキに紙を渡す

「ウィーズに15年間小屋の中で育てられた」

「15年もの間、全く外に出ていない」

「アカデミー入学が初めての外出だった」

「そこで女子というものを初めて知った」

コウキ「うん、その通りだよ。」

ユウ「15年もの間外に出なかったの!？」

コウキ「まあ、薬草摘みに行くことしかなかったから」

レオン「はじめて見たなら、あんな反応取るわけだぜ」

セリオス「しかし、こうなってしまったからには少しずつ知っておかないと不便になるぞ」

カイル「何かいい方法はありませんかね？」

と、考えていると・・・

ガルーダ「おいコウキ、ミランダ先生からの呼び出しだ、学園の保健室に行け！」

コウキ「あ、はい」

コウキは急ぎ足で保健室に向かった

「保健室」

コウキ「あの、コウキですが・・・」

ミランダ「あら、遅くに呼んでごめんなさい。」

コウキ「え〜っと・・・用件は？」

ミランダ「あなたの身長、体重、座高を測りたいの。だからそこでジャージに着替えて待っててくれないかな？」

コウキ「あ、わかりました。」

コウキはカーテンを閉めて用意されていたジャージに着替えようとしたその時・・・

ドカ　　ンッ！！

ミランダ「な、なに！？今の爆発音！？」

そこに・・・

アメリカ「すいません！！明日の授業で使おうと思ってたが  
ゴイルを逃がしてしまいました！！」

ミランダ「なんですって！！？」

ミランダは保健室を後にした・・・。

コウキ「・・・ガ　ゴイル？」

コウキも追うことにした

「アカデミー　正門」

サツキ「もう外に逃げてしまったのでしょうか・・・」

ウィーズ「だとすれば、そう遠くに行っていないはずだ！」

エリーザ「とにかく、手分けして探しましょう。」

教師たちは外に逃げたガ　ゴイルを探した。

しかし・・・

メディア「え〜っと・・・ミランダ先生どこに行ってしまったのか  
しら？」

一人の女の子が先生を探しているその時

ガ ゴイル「キシヤアアア．．．!!」

メディア「え．．．きゃっ!」

後ろからメディアに襲いかかってきたが、間髪捕まらなかった。

メディア「あ、あれはなんなの!？」

ガ ゴイル「キシヤアアア．．．!!」

メディア「きゃ．．．きゃあああ!!」

ガ ゴイルに襲われるその瞬間!!

コウキ「おら!!（バシィッ）」

コウキがガ ゴイルの顔に向かってサッカーボールを蹴った!

ガ ゴイル「ギャオオオ．．．!!」

ガ ゴイルの顔がつぶれた．．．。

コウキ「大丈夫か!？」

メディア「え、ええ．．．ってあなたは?」

コウキ「新しくこの学校に入ったコウキだ!」

そう言って、ガ ゴイルに向かってサッカーボールを蹴った。

ガ ゴイル「キシヤアアア．．．!!」

しかし、よけられてしまい．．．

ガシッ!!

コウキ「やべっ!」

そのまま高い所に飛ばされたまま投げられた。

コウキ「ぐわあああ．．．!!」

ドゴオオオン．．．

砂煙が立ち上る

メディア「ちよっ!!大丈夫!？」

ガ ゴイル「キシヤアアア!」

メディア「きゃっ!」

ガ ゴイルにまた狙われた。

ガ ゴイル「キシヤアアア．．．!!」

メディア「きゃあああ!」

その時だった．．．

コオオオ……（ガ ゴイルの下に、緑色の魔法陣が浮かび上がる）

ガ ゴイル「!?!」

メディア「な、何これ……」

ガ ゴイルの後ろを見るとコウキが立っていた。しかし、普通のコウキではなかった。

コウキの額に変わった模様が浮かび上がり、右手には魔法陣が書かれていた

コウキ「……“汚れた魂を持つ者、我が前にて、朽ち果てて塵となれ!!”」

ガ ゴイル「!?!?!」

コウキ「ソウル・イーター吸魂!!」

コウキが放った一言により、ガ ゴイルから出て来た白いものがコウキの手に吸い込まれていった

ガ ゴイル「ギャ、ギャオオオオオオ!!」

全部吸い終わった時、ガ ゴイルは石化してしまった

コウキ「エクスプロージョン消滅!!」

ドカ            ン!!



石化したガ　ゴイルは爆発し消滅した

コウキ「……」

そして、全てを吸い込み終えた時……

メディア「だ、大丈夫？」

コウキ「……（バタツ）」

メディア「きゃっ!!」

力尽きたかのように倒れてしまった……。

「保健室」

コウキ「……う、うっくん」

メディア「あ、気がついた？」

コウキ「こ、こは……」

メディア「保健室よ　」

コウキ「そう……痛っ!!」

メディア「あ、じっとして!いま軟膏を塗ってあげるから!」

コウキ「あ、ありがとう・・・／＼／＼」

コウキ『あれ？なんだろう・・・この感じは』

メディア「ほら、早く上を脱いで！」

コウキ「あ、ああ・・・」

数分後・・・

コウキ「あ、ありがとう・・・」

メディア「どういたしまして」

メディアはコウキのベッドから離れていった

コウキ「・・・なんか複雑だなあ、何というか・・・うん・・・」

悩んでいると

メディア「おまたせ・・・キャッ!!--」

足を滑らせコウキに向かって倒れてしまう

コウキ「あ、あぶない!--」

むじゅっ・・・

コウキ「へ?」

コウキの両手には、柔らかく大きい物が乗っていた。

メディア「・・・／／／／」

コウキ「え、え〜つと・・・」

メディア「きゃあああ！！（バシィッ）」

コウキ「ぐぽあっ！！！」

コウキはこの時思った・・・

コウキ『女の人って・・・怖い（泣）』

この事件がきっかけで、彼は女性恐怖症になってしまった・・・。

第2回テスト：女の人って・・・（後書き）

レオン「おい、顔腫れてるけどどうしたんだ？」

コウキ「女の人って・・・ものすごく怖い（泣）」

セリオス「何があっただ（汗）」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0887x/>

---

クイズマジックアカデミー コウキの学園生活！

2011年10月10日10時26分発行